



自主防災組織

自主防災組織の活動に参加しましょう！

大規模な災害が発生した場合、ライフラインの断絶などによって、行政や防災関係機関の救助対応に時間が掛かることがあります。

個人や家族の力だけでは限界があるため、日頃から付き合いのある隣組や行政区などで互いに助け合い、協力し合える自主防災組織の体制を整えておく必要があります。

「避難行動要支援者」を支援しましょう！

「避難行動要支援者」とは、高齢者や心身に障がいを持つ方、妊産婦、乳幼児、外国人などのうち、災害時の行動を取るのに支援を必要とする人たちです。

過去の災害では、被害者の中で高齢者が高い割合を占めています。日頃から地域で高齢者などの避難行動要支援者を把握し、支援ができる体制を整えておきましょう。

避難支援のポイント

◆高齢者・乳幼児・傷病者

- 手をつないだり、背負うなどして保護し、誘導する。
- できるだけ複数の介護者で対応する。



◆目の不自由な人

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持ってもらい、半歩前をゆっくり歩く。



◆耳の不自由な人

- 話すときは、口をはっきりと開け、相手に分かりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



◆身体の不自由な人

- 障がい者に合わせた誘導方法を確認する。
- 車いすの場合は、階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後向きにして移動する。



自主防災組織の活動

自主防災組織の活動には、災害に備えて被害の発生や拡大を未然に防止するため日常的に行う活動（平常時の活動）と、災害が発生した後に地域で被害の発生や拡大を防止するために行う活動（災害時の活動）があります。

平常時の活動

- 講習会や訓練を通した防災意識の普及、知識・技術の習得
- 地域の危険箇所の点検や避難経路、避難所等の場所の確認
- 地域住民の交流、避難行動要支援者の把握
- 防災資機材の整備、点検



災害時の活動

- 災害情報の収集を行い、地域住民への正しい情報の伝達
- 消火器などによる初期消火活動
- 地域住民の安否確認、避難誘導、避難所等の運営協力
- 被災者の救出、救護
避難行動要支援者などへの支援
- 食料品や救援物資などの分配や炊き出し



This image shows a blank sheet of white paper with horizontal dashed lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting practice. There are no other markings or text on the page.

- この地図は広川町における洪水、土砂災害を想定して制作したハザードマップです。
- ハザードマップには、大雨によって町内の広川がはん濫した場合に想定される浸水区域、土砂災害のおそれのある箇所や避難施設などの防災施設を示しています。
- この地図に表示している河川はん濫による浸水想定区域は、福岡県が実施した浸水予測シミュレーションの結果を基に、想定されるはん濫区域を重ね合わせたものであり、想定される最大の区域と水深を示しています。
- この地図に示した浸水想定区域や土砂災害のおそれのある箇所以外でも浸水したり、土砂災害が発生したりする場合がありますので注意してください。